

マイクロプラスチック調査結果の概要（令和3～7年度）

1 調査時期

年2回

9月（以降の図中「夏」と表記）

1月または2月（以降の図中「冬」と表記）

2 調査地点（採取位置）（図1）

① 鶴見川・亀甲橋（左岸・中間・右岸3点）

② 帷子川・横浜新道下（中間1点）

③ 境川水系柏尾川・吉倉橋（中間1点）

3 調査方法

「河川・湖沼マイクロプラスチック調査ガイドライン」

（令和7年7月、環境省）に準じた方法

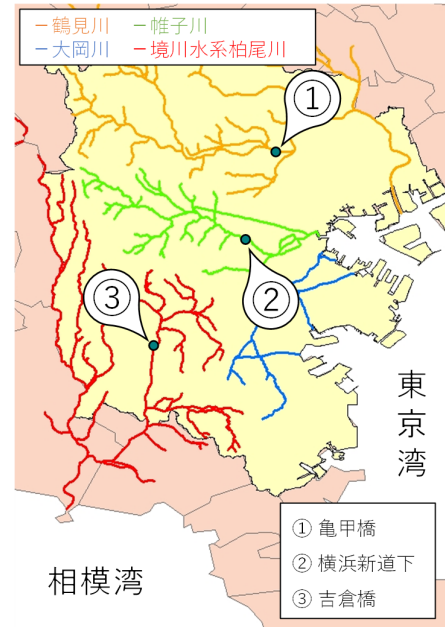


図1 調査地点

4 調査結果

(1) 個数密度について

・亀甲橋は、横浜新道下及び吉倉橋と比べて大きい傾向にある。（図2）

・横浜新道下及び吉倉橋は、個数密度と調査日前10日間の積算降雨量との間に相関がみられる。

(図3)

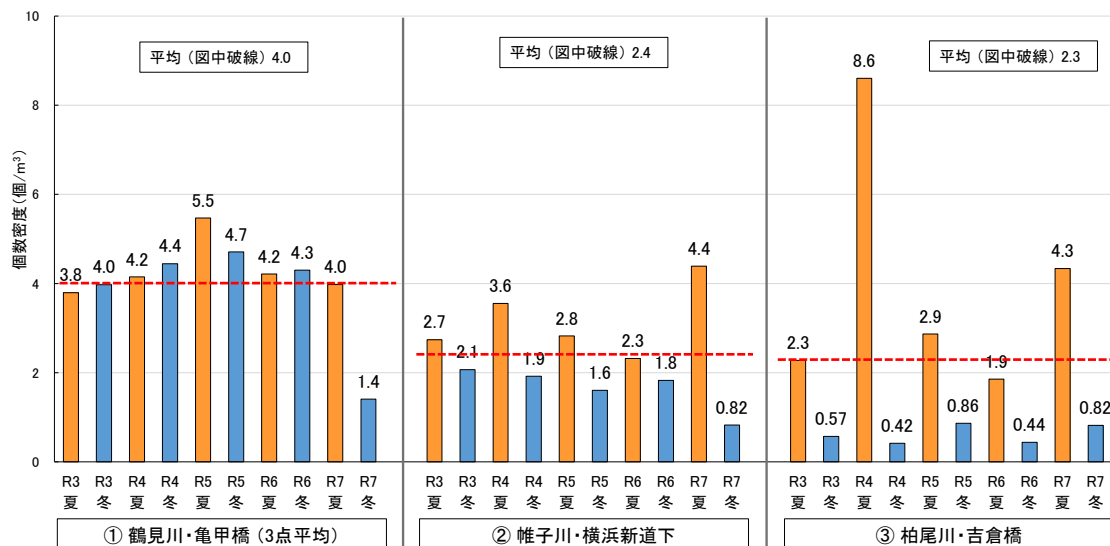


図2 個数密度

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、横断方向3点（左岸・中間・右岸）の平均値をグラフ化

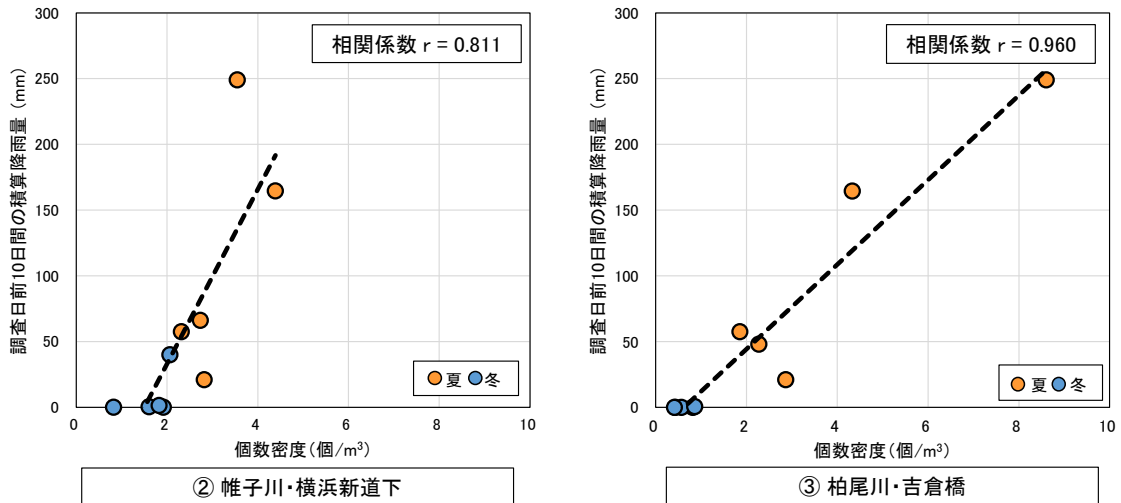


図3 個数密度と調査日前10日間の積算降雨量の関係（令和3～7年度）

(2) 形状と材質について

- ・採取されたマイクロプラスチックについて、形状は「破片」「膜・シート状」「ビーズ」「発泡」「球・円柱」「繊維状」、材質は「ポリエチレン」「ポリプロピレン」「ポリスチレン」「その他プラスチック」にそれぞれ分類して集計した。（図4,5）
- ・形状は、調査地点や調査時期を問わず、全ての調査において、「破片」及び「膜・シート状」で全体の7割以上を占めている。（図4）
- ・材質は、調査地点や調査時期を問わず、全ての調査において、「ポリエチレン」及び「ポリプロピレン」で全体の8割以上を占め、次いで「ポリスチレン」が採取された。「その他プラスチック」の内訳は、ポリエチレンテレフタレート、ポリアミド（ナイロン）などである。（図5）

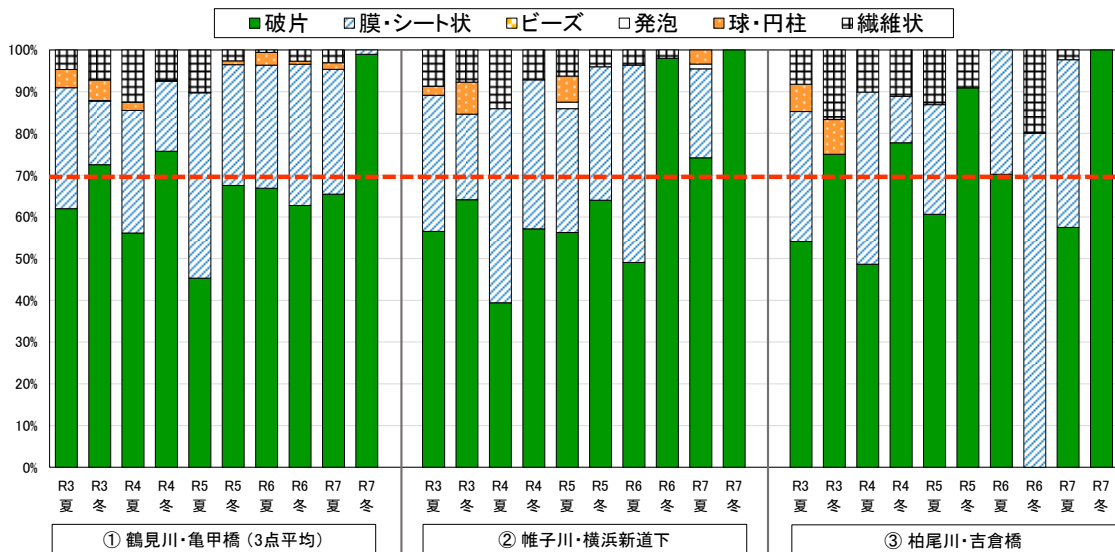


図4 形状別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、横断方向3点（左岸・中間・右岸）の平均値をグラフ化

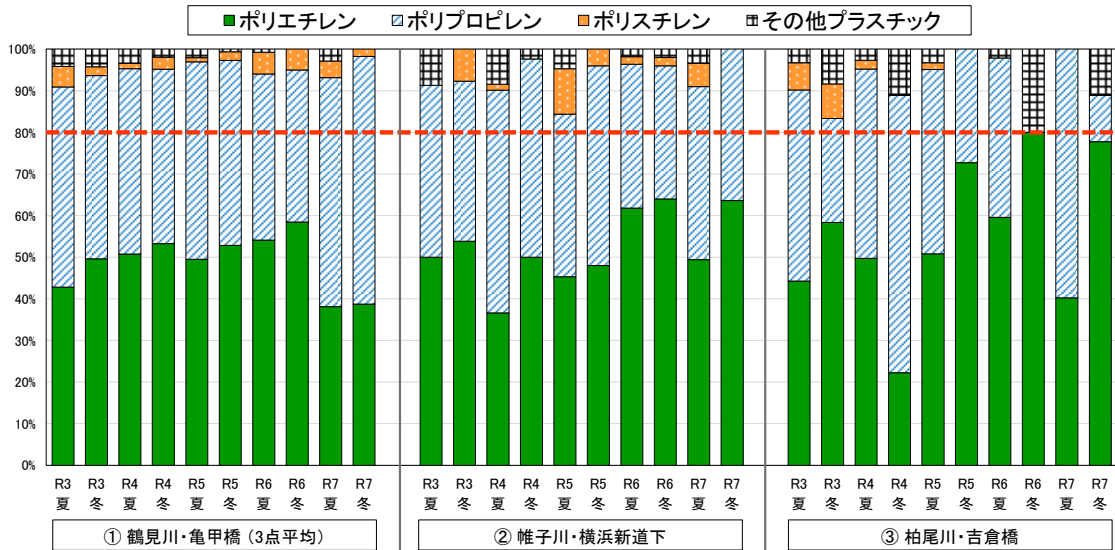


図5 材質別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、横断方向3点（左岸・中間・右岸）の平均値をグラフ化

(3) 元のプラスチック製品の推定について

- 採取されたマイクロプラスチックについて、材質や色などから元のプラスチック製品を推定し、「不明」「人工芝」「発泡スチロール」「ポリスチレン粒子」「ペレット」に分類して集計した。

(図6)

- 調査地点や調査時期を問わず、全ての調査において、「不明」が5割以上を占めている。(図6)
- 全ての調査地点において、「人工芝」及び「ポリスチレン粒子」と推定したマイクロプラスチックが採取されている。(図6)

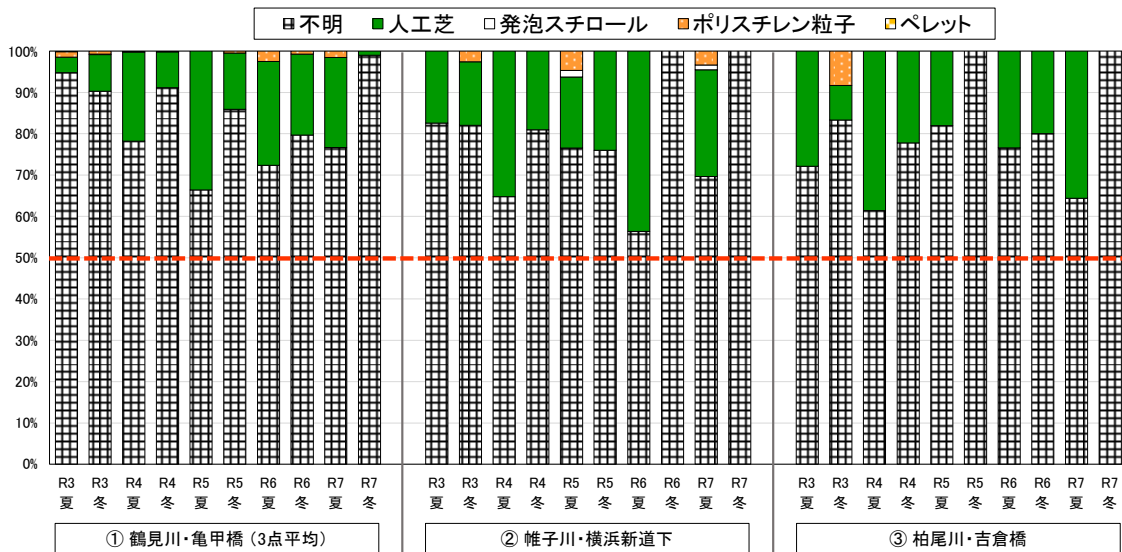


図6 元のプラスチック製品の推定別の割合

(注) ①鶴見川・亀甲橋は、横断方向3点（左岸・中間・右岸）の平均値をグラフ化